021

After Century

Art Campus

Photography
Cinema
Fine Arts
Music
Literary Arts
Theatre
Broadcasting
Design

学部公式ホームページ企画

REAL! nichigei 2010

第一弾に増して、ますますパワーアップする日藝生の本音と人柄を取材！ アクセスもユーザビリティも良くなって、日藝の8つのアートに迫る内容で再登場。ひとりひとりのキャラクターがよりドラマチックに見えてくる。

「今」を一つの通過点として。

一歩踏み出す。何かが見える。
もう一歩踏み出す。もっと何かが見えてくる。
この瞬間は、前に進むための通過点。
だから「今」を精一杯生きていく。

文字という素材を使ったアートを奏でる。

文芸学科 2年

加藤雅菜さん

■詩との出会い

控え目で、おとなしい。それが加藤雅菜の第一印象だった。言葉を探すようにぽつりぽつりと話す。そんな加藤が書いた「詩」がここにある。そこにあったのはあふれる言葉と、その奥に込められたまっすぐな思い。無口な加藤の胸の奥にある、もう一人の雄弁な彼女を見た思いがした。

加藤雅菜が本格的に「詩」と向き合ったのは、日芸に入ってからである。高校時代、ノートの片隅に自分の思いを書き留めたことはあったが、もちろんそれは「詩」と呼べるものではなかった。大学の授業でいろいろな詩人の作品を読んだ加藤は、題名をつけない4行詩があることや、句読点のついた改行があまりない詩など、さまざまな詩のかたちが存在することを初めて知った。『詩はそれなりの長さがあって、題名がなくてはならないもの』と思い込んでいた彼女にとって、それは一つの驚きだった。

かくしごと

シンメトリーな貴方は揺るがず。
アシンメトリーな僕が揺らぐ。
だから景色が傾いでゆくのか…
単調な言葉は伝染した様です。
変わりそうもない整ったバランスで、
多少頭でっかちな貴方はそこにいる。

ねえ、秘密を教えてよ。
四角い空間に押し込められたものを。

無表情。
やっぱり貴方は変わらない。
だから少し憧れるのかな。

■そこにある喜びや悲しみを

「詩は自由。だからこそ可能性を探りたいと思いました」と加藤は言う。「詩であるからにはリズムがなければならないと思うし、韻をふむとか文字の並び方にもこだわりたい」。最近、ゼミ雑誌に作品を発表する機会もできた。自分の好きなものだけを書いてきた彼女にとって、読んでもらうための詩を書くこともまた初めての経験だった。「自分の書いたものが読む人に受け入れられるのか、とても不安でした。いざ発表してみると、つながりがおかしいんじゃないかと自分で思っていた詩が結構評価されたり、逆に自分が気に入っている詩があまり評価されなかったり。意見を聞くことで、『読んでもらうための詩』への意識も高まりました」。

デリート

歪む直線
捻れてゆく文字
混ざり合う白と黒
跡形もない紙の上
いつかそんなふうになるの？
確かな感覚が消えてしまうの？

直線故の激しい不安

ノートの片隅に書いた詩は、誰の目にも触れることはなかった。しかし加藤の書く詩は、他人の目に触れるようになった。読み手に何を伝えたいか、という質問に加藤はこう答えた。「伝えるというより、その詩が持っている喜びや悲しみなどを感じてもらえればと思っています」。加藤は一文字一文字に託した詩の中に、心の奥深くに宿る思いを込める。

カメラ

一瞬。
二度とやってこないと知って
カシャリ。
満足を覚える行為
現像したフィルムを見る悲しさに勝り
繰り返す
ボタンひとつ。
簡単すぎるから
閉じ込めていく思い出
油断した針の進み具合に驚き
本当の感動が薄れゆくのに

カシャリ。
思い出は二次元化され
左右逆転した鏡で過去の自分を見る
頭では
ちゃんと思い出せている
身体では
思い出せなくなった
手は事あるごとにボタンに伸び
レンズの向こうに狙いを定める

カシャリ。
四角の中の一瞬
残したかったのはこれじゃない
もっと温かい
そのままの感動
思い、なのに

あ、雲が流れている
カシャリ。

■わずか17文字の詩

飼い慣らす　鼓膜の中の　きりぎりす

これは、1年の時の連句の実習で書いた俳句だ。この句が「第21回 伊藤園お〜いお茶 新俳句大賞」で都道府県賞を受賞した。普段、自由で広大な詩の世界と接している加藤が、五・七・五といういわば“不自由”な俳句で賞を取るとはおもしろいものである。「お茶という秋のイメージから虫を使おうと思って、きりぎりすというキーワードを思いつきました。そこからどんどんイメージをふくらませてこの句ができました」。五・七・五という限られた文字で表現する俳句の中に、彼女は詩を書く時と同じように思いを込めて一つの世界を創りあげた。これはまさに、加藤が書いた17文字の詩である。

幼い頃から漫画やイラストを描くことが好きだった。日芸を選んだのも他の芸術に触れることができるという理由があったから。何かを創ることに興味があった彼女にとって、詩はアート。視覚に訴える文字の並び。行間に見える空間の美しさ。漢字やひらがな、カタカナが持つ直線や曲線の組み合わせ……。加藤は文字という素材を使い、詩というアートを創ろうとしている。

次のアートシーンを発信する藤城嘘の世界。

美術学科 絵画コース3年

藤城 嘘さん

■アートを通して人をつなぐ

藤城滉高こと藤城嘘。藤城嘘の携帯やパソコンには何千、何万もの画像データが保存されている。イラストあり、漫画あり、絵画あり、写真あり。これらはすべて、彼が好きなもの。ただ単に集めるのではなく、好きなものだけを集めた藤城嘘の世界である。

コレクターなら世の中に五万といるだろう。しかしそれをコレクションに終わらせないところに彼のすごさがある。以前から自分のページでイラストを公開し、交流しあうPixivというサイトを利用していた藤城は、商業向きのきれいな絵ばかりが評価されることに疑問を抱いていた。なぜ感覚で絵を描く人が評価されないのだろう。そう考えた藤城は自分の好きな絵を公開している人たちにメールを送り、美術作家の村上隆氏が主催する『GEISAI』にグループで出展しないかと呼びかけた。彼の考えに賛同したのは約7人。藤城は『POST POPPERS』というグループを立ち上げ、『GEISAI』に出展して注目された。日芸に入学して間もなくのことである。

■50人の作品が一つのシーンになる

現在、藤城は『POST POPPERS』から派生した『カオス*ラウンジ』を中心に活動を続けている。第一回の『カオス*ラウンジ』では彼の好きな描き手が50人以上集まり、さまざまなイベントを開催。今年の4月には美術評論家の黒瀬陽平氏と藤城嘘の共同企画『カオス*ラウンジ2010』を都内4カ所の会場で開催し、現代アートに新風を注ぐプロジェクトとして話題を呼んだ。

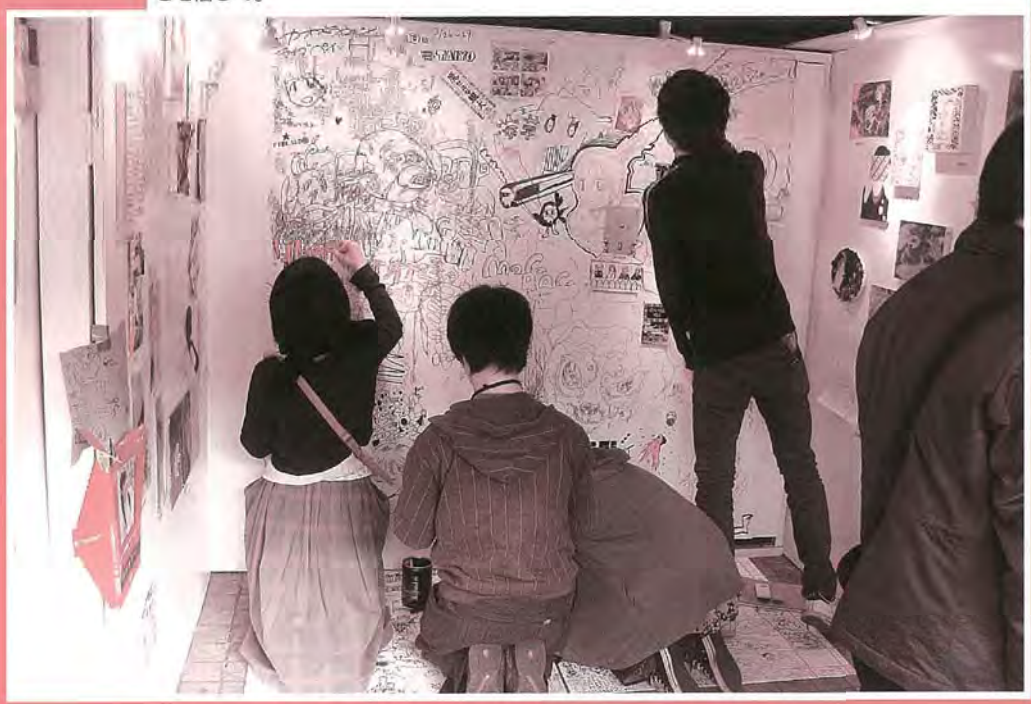
『POST POPPERS』から『カオス*ラウンジ』へ。彼の活動は刻々とかたちを変えているが、その根底にあるのは数多くの作品を一カ所に展示することにより生まれるシーンの力。「作品を何十と集めて一つの空間に展示することで、一つのシーンが発生し、より強力なメッセージを発信できると考えています。カオス*ラウンジ2010ではネットやクラブ、ファッションなど新しい文化を融合した展示もしましたが、いま何が流行しているか、何が起きているかを敏感に感じ取ることが重要です。それらを吸収し、自分自身を見つめながらもいろいろな物事を結び作品を創るのが美術作家であり、アーチストだと思います」。藤城嘘が発信するアートシーンはこれからどんなふうに変化し、成熟していくのか——。それは彼自身にもわからない。

■その先にある“何か”を求めて

「日芸で絵画の基礎や歴史を学んだからこそ“今”が見えてきた」と彼は言う。「絵画にも歴史があるし、日本に生まれた自分自身にも歴史がある。そうした歴史の上に今の自分があり、現代のアートがある。そういう意識を持ちながら、今を生きる若い人たちに美術や絵画のおもしろさを伝えたいですね」。

小学校の時、藤城は本を読んでおもしろい文章を見つけるとそれをコピーし、クラス全員に配っていた。自分が気に入ったもの、思っていることを伝えたいという気持ちが幼い頃から強かったようである。藤城は数々のイベントを通して「美術ってこんなにおもしろいんだよ」「もっと気軽にギャラリーに行ってごらんよ」というメッセージを送っているのかもしれない。

作品がつながり、人がつながることで、今日から明日へとつながっていく“何か”が生まれることを信じて。



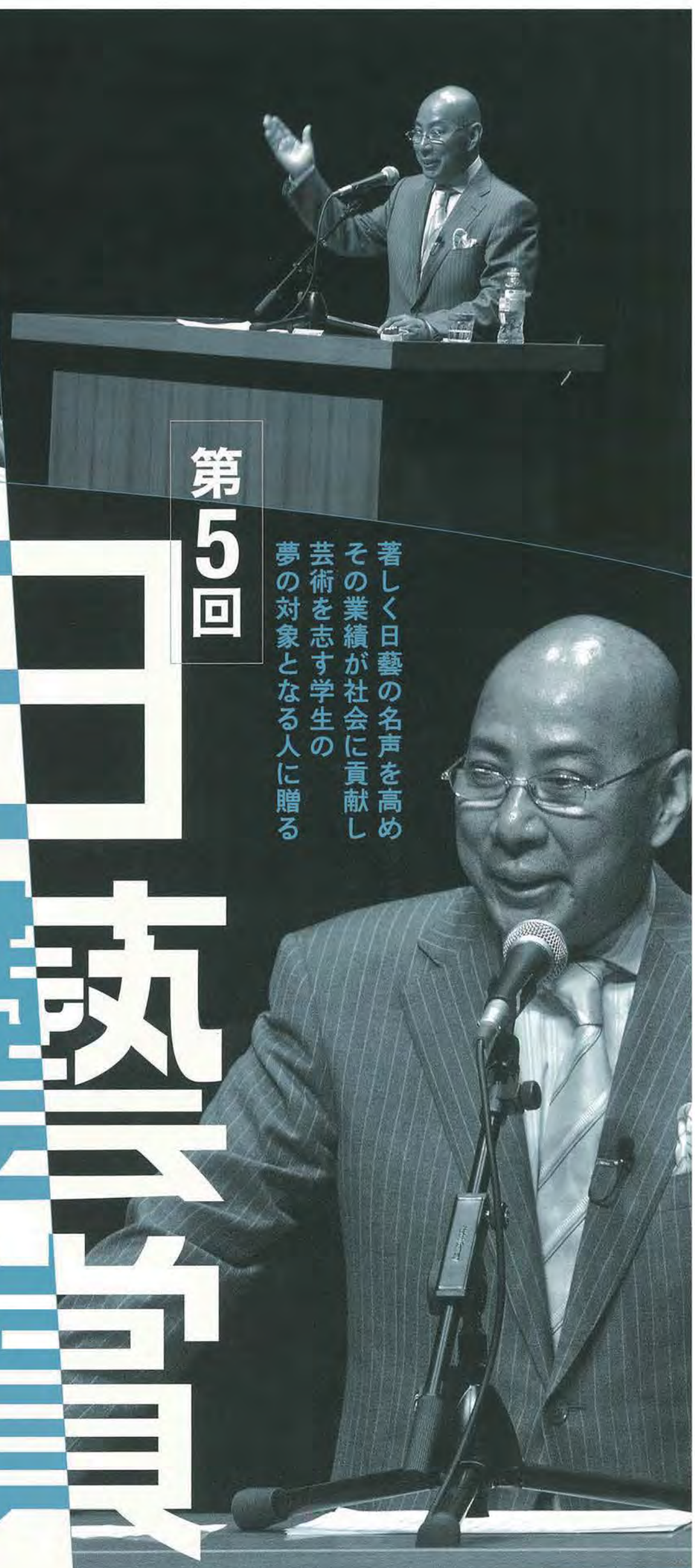
なぜなら画家、音楽家、脚本家、と文字のおしまいに「家」とつく職業は、「元」画家、「元」音楽家と決して呼ばれない。一度その道に入ると、なかなか下りることができない。注文や仕事が減れば、その精神的重圧は並大抵のものではない。辞めるということは、人生を下りるということに等しい。

日藝賞」はそういった厳しい道で、がんばっている人たちにもらっていただく賞で、なおかつあとに続く学生たちの励みになってもらえればという賞である。つまりは「著しく日藝の名声を高め、その業績が社会に貢献し、芸術を志す学生の夢の対象となる人に贈る」ものである。その「日藝賞」も今回で第五回目を迎える。我が日大芸術学部は多士済々で、人材が枯渇することがないほど素晴らしい先輩たちがいる。それはみなさんの努力と精進の賜物だが、学生たちにはその精神を受け継いでもらいたい。そして多くの人々の投票が賞の熱と誇りを生む。学生、教職員、校友会役員のみなさんは、先輩後輩、仲間たちの後押し、応援のためにも、奮って参加していただきたい。

Yojiro SATO wrote 2010.

第1回日藝賞受賞者 **三谷幸喜**（演劇学科）
第1回日藝賞受賞者 **佐藤隆太**（映画学科）
第2回日藝賞受賞者 **大石芳野**（写真学科）
第2回日藝賞受賞者 **爆笑問題**（演劇学科）
第3回日藝賞受賞者 **宮藤官九郎**（放送学科）

おおたうに	イラストレーター	放送学科
林真理子	作家	文芸学科
三好耕三	写真家	写真学科
高城 剛	映像作家	文芸学科
北代高士	俳優	演劇学科
小杉十郎太	声優・ナレーター	放送学科
瀧波ユカリ	漫画家	写真学科
平野克己	画家	映画学科
森中慎也	札幌テレビアナウンサー	放送学科
浅利香津代	女優	演劇学科
大澄賢也	タレント・ダンサー	演劇学科
金子國義	画家	美術学科
君塚良一	脚本家・映画監督	放送学科
沢村 忠	キックボクサー	映画学科
玉造優也	フリーアーティスト	文芸学科
羽住英一郎	映画監督	映画学科
平間 至	写真家	写真学科
渕崎ゆり子	声優	映画学科
増渕康夫	フリーカメラマン	写真学科
三浦建太郎	漫画家	美術学科
群ようこ	作家	文芸学科
若松節朗	ドラマ演出・映画監督	放送学科
毒蝮三太夫	俳優・タレント	映画学科
石井聰亙	映画監督	映画学科
石丸謙二郎	俳優・声優・ナレーター	演劇学科
伊藤 蘭	俳優・タレント	演劇学科
岡島尚志	映画監督	映画学科
小原正子（クワバタオハラ）	東京国立近代美術館フィルムセンター主幹	演劇学科
川原和久	タレント	
神田正輝	俳優	演劇学科
菊池俊輔	作曲家	音楽学科
木原 実	俳優・気象予報士	演劇学科
木村友祐	作家	文芸学科
熊切圭介	写真家	写真学科
小林 岳	フリーアーティスト	放送学科
近藤サト	フリーアナウンサー	放送学科
佐伯泰英	小説家・写真家	映画学科
三遊亭白鳥	落語家	文芸学科
柴崎幸三	撮影監督	映画学科
白川義員	写真家	写真学科
管 洋志	写真家	写真学科
曽田正人	漫画家	デザイン学科
たかのてるこ	作家	放送学科
竹内順子	声優・ナレーター	演劇学科
塚本晋也	映画監督・俳優	美術学科
冨永昌敬	映画監督	映画学科
中井美穂	フリーアナウンサー	放送学科
中沢敏明	映画プロデューサー	映画学科
西村優子	デザイナー	デザイン学科
ホンマタカシ	写真家	写真学科
前田 剛	俳優・声優・ナレーター	映画学科
水口哲也	ゲームクリエイター・プロデューサー	文芸学科
森本レオ	俳優・ナレーター	放送学科



第5回

著しく日藝の名声を高め
その業績が社会に貢献し
芸術を志す学生の
夢の対象となる人に贈る

日藝賞

投票始まる！

お　とながこどもたちに教育を施すのは、国家の源が人材だからだ。さまざまな人材が育たなければ、国家は衰退するし発展もない。日大芸術学部はその人材を多く輩出しているが、近年はそのことを忘れて、大学は人生のモラトリアム期間だと勘違いして、あまり勉強をしない学生もいる。

一　芸に秀でるには、その道に向かって切磋琢磨するしかないし、懸命にやらなければ実を結ぶことは難しい。とくに芸術学部に在籍する学生たちは芸術家の卵のはずだから、精進するしか方法はない。ましてそうなり得たとしても、その道を歩み続けることは容易ではない。

第3回日藝賞受賞者
真田広之（映画学科）

第4回日藝賞受賞者
宮嶋茂樹（写真学科）

第4回日藝賞受賞者
市川團十郎（演劇学科）

★第4回日藝賞において得票のあった方は次のとおりです

《第5回日藝賞投票の参考にしてください》

松井龍哉	美術学科
石田　彰	演劇学科
蒼井　優	演劇学科
大塚寧々	写真学科
小野大輔	放送学科
船越英一郎	映画学科
小山薫堂	放送学科
中村獅童	演劇学科
よしもとばなな	文芸学科
青山剛昌	美術学科
荒井良二	美術学科
篠山紀信	写真学科
森田公一	音楽学科
ゴリ（ガレッジセール）	映画学科
松崎しげる	文芸学科
篠井英介	演劇学科
富野由悠季	映画学科
笹野高史	映画学科
高橋英樹	演劇学科
菅　賢治	放送学科
ロボットデザイナー	
声優・俳優	
女優	
声優	
俳優	
放送作家	
歌舞伎俳優	
作家	
漫画家	
絵本作家	
写真家	
作曲家・歌手	
タレント	
歌手・タレント	
俳優	
アニメーション監督	
俳優	
俳優	
日本テレビプロデューサー	

☆第5回日藝賞投票期間

平成22年11月8日[月]―26日[金]

★候補者の選出

芸術学部の学生（学部・大学院）、専任教職員、芸術学部校友会役員の記名投票によって候補者として選出します。

★受賞者の決定

投票によって選出された候補者について、学部長を委員長とした日藝賞選考委員会で最終選考を行い、平成23年1月下旬に受賞者2名を発表します。

★授賞式

平成23年4月8日の入学歓迎式の中で実施します。

世界へのまなざしを持って

今堀拓也（音楽学科助教）

私は日芸の出身ではありませんが、環境の良く似たある総合大学に、その付属中学から通いました。
大学では作曲を専攻しましたが、演奏会や本を読んで現代音楽の動向を調べるうち、色々な作曲講習会が行われている事を知り、それらに参加して日本各地の様々な友人を得ることが出来ました。現在の妻もその中に含まれます。
卒業間近の2001年のある日、卒業作品を学内の一回きりの演奏で終わらせるにはもったいないと思い、インターネットで検索したところ、オランダのガウデアムス財団の作曲コンクールが見つかりました。編成も規定に合い、応募料も安く、締め切りは間近。これだ！と思い、その日のうちに楽譜を国際郵便で送りました。
数週間後に英文のメールが届き、おそるおそる読んでみると、「あなたの作品はガウデアムス国際音楽週間に選出されました。本選は9月」と書かれていたのです。その時の喜びは今も忘れません。
同時期にフランスのエコールノルマル音楽院への留学も決まり、卒業後には慣れないながらも海外生活が始まりました。
そして9月。列車でパリからアムステルダムへ向かいました。ようやく覚え始めたばかりのフランス語の頭を英語に切り替え、つたない語学力でしたが同世代の若き作曲家仲間は皆快く輪の中に迎えてくれました。レクチャーやコンサートを聴き、ご飯を食べながら、音楽について熱く語り合いました。この辺りの振る舞いは、日本で既に参加していた講習会などの経験があったからこそです。
幸運にもこの時のコンクールでは大賞を頂くことができ、その後ドイツのドナウエッシンゲン音楽祭やラジオフランス・プレザンス音楽祭などにも招かれ、パリで勉学に励みながら同時に作曲家としての活動への大きな足がかりになりました。またかねてより憧れていたフランス国立音響音楽研究所IRCAMの作曲科研究員もつとめ、エレクトロニクスやテクノロジーを用いた創作表現を学びました。これは現在私が教えている情報音楽コースで、その知識が活かされています。
最近では昨年ローマの演奏会に出品し、また来年はキプロスの音楽祭で新作の演奏が予定されています。無論それらのみにとどまらず、良いコンクールなどがあれば今後も積極的にチャレンジして行きたいと思っています。
皆さんも日芸の持つ様々な分野で創作や表現、研究の活動を志していると思いますが、コンクールや海外の活躍の場を遠い出来事と思わず、常にアグレッシブに求めていけば、現実にそれらに手が届くきっかけはたくさんあります。ぜひ夢に向かって果敢に自分を発信していって下さい。

No fun, no gain

小沢 徹（体育助教）

「No pain, no gain」とは、「痛みなくして得るものなし」という意味である。日本の諺でいうなら、「虎穴に入らずんば虎児を得ず」にあたるだろうか。スポーツの世界では、非常によく聞く言葉である。スポーツに限らず、芸術の世界でも同様だろう。確かに、この言葉は正しいと思う。何かを得るためには、相応の努力が必要である。しかし、私はこの言葉とともに実践している言葉がある。それが、「No fun, no gain」である。
私は趣味でランニングをしている。趣味が高じて、ハーフマラソンの大会にも何回か出場した。自己ベストタイムは、1時間32分13秒。タイムは平凡であるが、21.0975kmを一度も止まらず、歩かず走りきるにはそれなりのトレーニングが必要である。しかも、体育の人間の性なのか、走るからには1秒でも自己記録を更新したいと思ってしまう。しかし、昔から長距離走が得意だったわけでも、好きだったわけでもない。むしろ苦手な競技の一つであった。陸上競技部には所属していたが、私の専門は短距離、それも100m、200mであった。そのため、長距離のトレーニングは正直しんどいときがある。そんなときは、いろいろな理由をつけて、走りに行くのをやめようとする自分が顔を出す。疲労がたまっている、とか、昨日は酒を飲んだ、とか。暑い、とか、雨が降りそう、とか。しかし、そんな風に気分が乗らないときでも、楽しく走りに行くことのできる方法がある。それは、笑顔を一つ作ること。たったそれだけでいい。誰に見せなくても、鏡の前でなくてもいい。口角をぐっと上げて、気合を入れる。レース前の緊張したときでも、この方法で気分を落ち着ける。こうすることで、物事が楽しく感じるのである。人の感情はおもしろいもので、楽しいから笑うのではなく、笑うから楽しく感じるということもある。これにはちゃんとした理由がある。人の感情は、筋肉の変化などを脳が知覚することで生まれる、ともいわれる。また、笑うことで、不安や怒りの減少に関係するβ−エンドルフィンというホルモンが分泌されることが知られている。ニコッと笑顔を作るだけで、しんどいことも楽しく感じるようになる。
やりたくないこと、やらなければいけないこと、いろいろなことがあるが、どうせやるなら楽しんでやった方がいい。嫌々やっても身に付かないが、好きなことはどんどん上達する。それは、そこに楽しいという感情が伴うから。自分にとって楽しいと思うことを行うと、脳はどんどん学習をする。それなら、自分のやることすべてを楽しくしてしまえばいいのである。No fun, no gain、楽しさなくして得るものなし、である。
つらいときこそ顔を上げて、ニコッと一つ笑顔を作る。そして、今日も私は走りに行くのである。

「継続は力なり」ですが･･･

小野 卓（事務局長）

マリナーズのイチローがついに10年連続200本安打の記録を達成しました。横綱白鵬は69連勝の記録に迫ろうとしています。そんなニュースに触れますと、果たして自分は何かを継続し続けて成し遂げたことはあるのだろうか、と考え込んでしまうことがあります。
生来、どちらかと言うと横着者に分類される自分ですので、目標を定め、日々努力を積み重ねることを「○○は頑張ってるね～」と他人事として評価することにしています。強いて継続していることと言えば、二十歳（?）以来、値上げがあろうと社会の風当たりが強くなろうと、煙草を止めようとしないこと。医者に色々と注意を受けながらも、休肝(休飲酒)日を設けないこと位です。どちらも褒められたことではありませんね。
よく「継続は力なり」と言う言葉を耳にします。その通りだと思います。継続し続けてきた過程そのものが自信となり、血肉となり実となると言うことかと思います。でも脇目もくれず歩き続けるだけでなく、時としてチョットだけ考えて見てください。継続してきたことを止めろとは勿論いいません。
ポイントを切り替えること、脇道に入ってみること、これも面白い世界観が広がるきっかけになるのではないでしょうか。継続しながらも視野だけは広～く持ってください。単眼的な物の見方はしないでください。そうすれば、今まで見たこともない色々な景色が目に入ってくるはずです。
何かを継続し続けている人は大いに尊敬しますし、継続的努力を見物者的評価しかできない私が言っても、説得力に欠けることは十分に分るのですが・・・。
そう言えば、もう一つ私にしては珍しく継続していることがありました。毎朝必ず女房に「行ってきます！」と声を掛けて家を出ます。同居人としてはごくごく当たり前のことでしょうが、いつもいつもお互い機嫌よくいるとは限りません。一言も口を利きたくない日もあります。しかし、必ずその一言だけは言うように努力しています。返事が返ってこない時もまれにありますが・・・。

ANA×日藝

産学連携委託研究の成果

ANAと日藝が産学連携プロジェクトで、モバイルサイトを使った若者向けの販売促進活動を本格的にスタートさせた。これは、前半の3ヵ月の委託寄付研究でアイデア出しをした案を、ANA本社でプレゼンテーションしたものが認められ、今回2度目の委託研究として本格的に企画・運営に携わることになったものだ。航空機で旅する若者を増やすために、「大空喜利」「フェイクドキュメンタリー」やツイッター、U-Streamなど参加型のコンテンツを揃えて、携帯サイトへの登録を促す。タイトルは、「パピプペもくもく」放送学科、文芸学科、デザイン学科の有志15名ほどの学生が参画している。

デザイン学科教授　木村政司

米国ワシントン州立大学サマースクール実施

平成22年度、米国ワシントン州立大学でのサマースクールが7月27日から8月12日までの17日間の日程で実施された。このサマースクールは、日本大学と40年以上の交流実績を持つ米国ワシントン州立大学（WSU）インテンシブ・アメリカン語学センター（IALC）が、日本大学芸術学部の学生を公式に受け入れる、短期集中型語学研修及び体育実技単位認定研修スクールである。

実施に当たっては、午前9時から11時45分まで、途中10分間の休憩を挟んで語学授業とオリエンテーションが行われる。語学の授業においては、健康をテーマに教材を使ったヒアリング、グループに分かれてのディスカッションが行われ、学生達のヒアリングやコミュニケーション力を伸ばすプログラムとなっていた。また、授業を通して、学生達はアメリカの食文化を中心とした日本との文化の相違点について学ぶことが出来た。そして、午後1時30分から3時までは体育実技授業が行われた。体育実技においては、大学内にある全米1・2と言われているレクリエーションセンター（SRC）内の多様な施設を利用して実施された。また、授業が終わった後でもスポーツ施設を使用したければ、大学で交付されたIDカードを見せると、バスケットボール、サッカー、テニス、ゴルフ、水泳などができ、アメリカの大学でのキャンパスライフを満喫することが出来る。内容については、17日間に26時間の語学クラスと13時間の体育実技クラスが用意されていて、語学クラスでは主に日常会話、ストレス、栄養問題と次に行われる授業についてのオリエンテーションである。そして、体育実技クラスでは主に基礎体力づくり、エアロバイク、ゴルフ、フィットネス、ヨガなどが行われた。

休日においては、自由時間と英会話の実習を兼ねた楽しいフィールドトリップを経験することが出来た。なかでも、大自然の中で1時間くらい乗馬をし、自然の中でのランチタイムを楽しむといったことや3時間くらいのリバーラフティングをしながら途中でランチをしたり、途中で泳いだりして楽しい時間を過ごすことが出来たことである。また、帰る途中では、日本のスタイルと違ったアメリカンスタイルのバーベキューを楽しみ、アメリカの人々の余暇の過ごし方なども体験することが出来た。

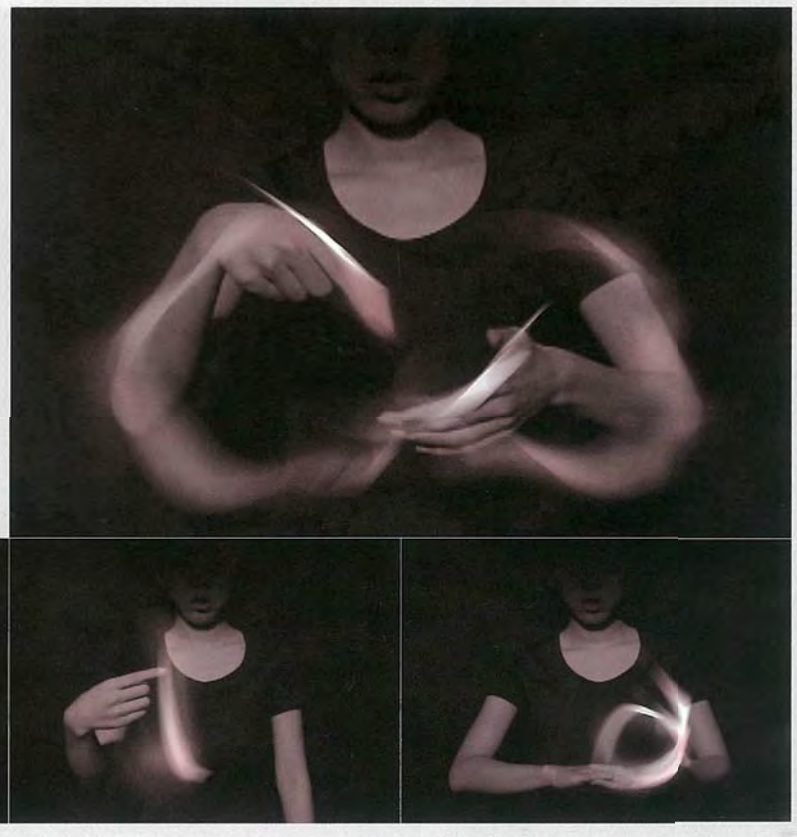
今回、アメリカ合衆国のワシントン州立大学でのサマースクールにおいて、異文化の人達と接することが出来たこと、素晴らしい学内にある施設を利用して授業が出来たこと、また、学内にあるいろいろな施設や博物館を見学させてくれたことなど、短い期間であったがまたとない機会で学生達も大変有意義な時間を過ごすことが出来たと思っている。

体育教授　松村悦博

吉田由梨さん（平成21年度卒）が、国際コンペティション・第7回「名古屋デザインDO! 2010」でグランプリ受賞!

10月8日、国際コンペティション・第7回「名古屋デザインDO! 2010」の最終審査が行われ、平成21年度デザイン学科コミュニケーションデザインコース卒業の吉田由梨さんが、グランプリを受賞しました。吉田さんは、卒業制作より手話をテーマとしたデザインに取り組んできました。このたびの受賞作品『てことば』は、「未来の ために――すくう・まもる・できる」というコンペティション・テーマのもと、それをあらたに発展させたデザインを提案し、大変高く評価されたもので、世界26ヵ国応募総数1,503件の応募の中から、グランプリに選ばれました。今後吉田さんは、11月に名古屋で開催される受賞者ワークショップに招待され、また、12月2日には授賞式が行われます。

デザイン学科准教授　向井知子



INFO. CALENDAR

8つのアート&ニューズ

写真学科

◉芸術資料館で「写真の開国」展開催

日本大学芸術学部オリジナルプリントコレクションより「写真の開国」展が10月26日～11月18日に芸術資料館で開催されます。これまで公開される機会が少なかった幕末明治期の日本の貴重な歴史的写真約50点を展示いたします。

C・L・ウィード『横浜山手から居留地の遠望』1866(慶応2)年頃(巨大な14×20インチ湿板マンモスプレートからの鶏卵紙プリント)

◉平成22年度芸術学部祭・マルチスライド特別上映

写真学科客員教授・菅 洋志先生によるマルチスライド映像展「メコン悠々流転」が11月1日～3日の芸術学部祭期間中、江古田校舎東棟地下実習講義室で上映されます。650枚のスライドを12台のプロジェクターを駆使して上映します。

◉新東レ水着キャンペーン産学協同制作始動

産学協同制作プロジェクトとして、昨年度に続き写真学科学生カメラマンが新東レ水着キャンペーンガールの撮影を行います。撮影内容は11月プレス(キャンペーンモデル)発表用写真とポスター用で、ポスターは撮影後にモード学園デザイン系学生によるコンペティションでデザインされ3点のポスターが制作されます。

◉「日本大学芸術学部写真学科2011卒展」開催

例年、富士フイルムフォトサロンで開催されてきた卒業展は、同展示会場改装などの理由により、本年度は2月中旬から3月初旬にかけて、江古田校舎内の芸術資料館で開催されます。

映画学科

○SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2010短編部門(国内コンペティション、7月23日～8月1日開催)において、映画学科平成21年度卒業制作『隣人ルサンチマン』が、最優秀作品賞を受賞しました。

○映画『ヘブンズ ストーリー』(瀬々敬久監督/10月2日より全国順次公開作品)の公開に先駆け、監督ティーチイン付き試写会を9月25日に開催しました。

○Tokyo Downtown Cool Media Festival(日中韓台湾の4カ国9校から全23作品の学生映画を上映)が東京都墨田区のアサヒアートスクエアにて、11月26日～28日の期間、開催されます。映画学科からは平成21年度卒業制作『ひと・となり』『COLORS』の2作品が上映されます。

美術学科

◉展覧会等のお知らせ

○美術学科彫刻コース教職員展　柳瀬荘(所沢)
11月4日～28日　10:00～16:30(木～日のみ開館)
同ワークショップ　11月7日　10:00～16:00
建畠朔弥「穴・Holeを空間に出現させる」―パーソナルボックスを作ろう―

○鞍掛純一展
11月6日～28日　10:00～18:30(水曜休)
Plaza Gallery(仙川)

○進川桜子展(2010年大学院造形芸術専攻絵画分野修了)
11月23日～28日　ギャラリー同潤会

○北野生涯教育振興会奨学金受賞者展
正親優哉、樋口ローラアリス梓
11月24日～12月3日　芸術資料館、A&Dギャラリー

○正親優哉　樋口ローラアリス梓二人展
11月29日～12月19日　国分寺Roof (café 2Fでの展示)

○第35回全国大学版画展
12月4日～19日(月曜休館)　町田市立国際版画美術館
(火～金=10:00～17:00、土・日=10:00～17:30)

◉信楽陶芸トリエンナーレ2010「信楽まちなか芸術祭」の関連事業として、「建築とやきもの そして信楽」展、「陶によるフィギュア展」が10月1日～31日にかけて滋賀県甲賀市で開催され、夏の間に全国の大学から集まった学生による陶彫の展覧会に、彫刻コースの学生5名が参加しました。

◉彫刻コース有志が練馬区立向山小学校50周年記念レリーフ制作に参加し、鳥が夢を運ぶイメージの6m近い陶彫によるレリーフ作品が体育館のコンクリート壁面に取り付けられることとなりました。11月20日には記念式典が行われる予定です。

音楽学科

◉演奏会のお知らせ

○第22回ウィンドオーケストラ定期演奏会
11月16日　18:30開演　練馬文化センター大ホール
N.ヘス:イーストコーストの風景、V.ネリベル:交響的断章、J.S.バッハ(ハンスバーガー編):幻想曲とフーガハ短調、J.バーンズ:交響曲第3番
指揮:大木孝雄　演奏:音楽学科ウィンドオーケストラ

○第39回ピアノコンサート
11月22日　15:00開演　練馬文化センター小ホール
ピアノ独奏:楠 沙織、矢向志野、堀江春香、横川千秋、井上絢菜、鈴木美貴、笹野真里、福與碧子、笠井靖子、糸井川夏穂、知地麻琴、太田世良、市川みず季、川瀬史泰、佐々木 唯、荻野祐子、矢野絵里佳、中村かおり、金田夢子、村川詩織、藤山瑠衣、太田由紀、本島 唯、日高麻子、佐藤可奈子、渋谷ひかり、田中有加里、黒田 恵、小川彰吾、里村亮祐、岡田治樹、谷 亜矢子、菊池亮太、原 久美子

○第103回定期演奏会
12月2日　18:30開演　練馬文化センター大ホール
R.ワーグナー:楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲
W.A.モーツァルト:クラリネット協奏曲イ長調　Kv.622
クラリネット独奏　四戸世紀
S.プロコフィエフ:交響曲第5番変ロ長調　作品100
指揮:矢崎彦太郎、演奏:日本大学芸術学部管弦楽団

○第31回新作室内楽の会
12月14日　18:30開演予定　江古田校舎音楽小ホール

○大学院修了演奏審査会[ピアノ・管楽]
12月17日　10:30開場予定　江古田校舎音楽小ホール

○大学院修了演奏審査会[声楽]
12月18日　13:00開演予定　江古田校舎音楽小ホール

○平成22年度大学院修了演奏会
2月28日　17:00開演予定　練馬文化センター小ホール

○平成22年度卒業演奏会
3月23日　18:00開演予定　練馬文化センター小ホール

文芸学科

◉第21回「伊藤園お～いお茶 新俳句大賞」に入賞

「第21回伊藤園お～いお茶 新俳句大賞」が開催され、1,657,098句の応募作の中から、以下の学生の作品が各賞を受賞しました。

○都道府県賞=加藤雅菜(2年)

○佳作特別賞=黒沼千春、北條寛之(3年)、福田泰佑(卒業生)
林田真奈(卒業生)、高井らら(放送学科4年)

◉築城厚三さんが第26回日大文芸賞受賞

「第26回日大文芸賞」(日本大学新聞社主催)において、築城厚三さん(大学院文芸学専攻2年)の「水かきがない」が最高位の文芸賞を受賞。また片倉夏実さん(4年)「瞼が閉じる」、小黒實之さん(4年)「蒐集家(コレクター)」が優秀賞を、原 仁美さん(平成14年度卒)「夏の手招き」が佳作をそれぞれ受賞しました。築城さんの文芸賞受賞作品は日本大学新聞9月号に全文掲載されています。

日大文芸賞を受賞した築城厚三さん

演劇学科

演劇学科のある北棟も正面の大階段が完成し、中ホールのエントランス・ロビーが整い、いよいよ劇場としての形が出来上がりました。

江古田校舎北棟中ホールの緞帳

後期の実習発表や卒業制作の公演は下記のとおりです。

○舞台総合実習ⅣD(洋舞)
Modern Dance Performance ～ロンド・カノン形式による創作～　創舞指導:加藤みや子
11月12日・13日　江古田校舎北棟中ホール

○舞台総合実習VA(演劇)『・・・』　学生演出
11月18～20日　江古田校舎北棟小ホール

○舞台総合実習ⅡD(洋舞)
Modern Dance Performance ～シンメトリー形式による創作～　創舞指導:加藤みや子
11月26・27日　所沢校舎アートセンター・ブラックボックス

○舞台総合実習ⅣA(演劇)
『「春独丸」「俊寛さん」「愛の鼓動」』
作・演出:川村 毅
12月2～4日　江古田校舎北棟小ホール

○舞台総合実習ⅡC(日舞)　「杜子春」
原作:芥川龍之介　創舞指導:藤間恵都子
12月4日　所沢校舎アートセンターブラックボックス

○卒業制作(日舞)
タイトル未定　創舞指導:花柳昌太朗
12月10・11日　江古田校舎北棟中ホール

○舞台総合実習ⅡA(演劇):「上野動物園再々々襲撃」
原作:金杉忠男　脚本・構成:平田オリザ　演出:鵜澤秀行
12月16～18日　所沢校舎アートセンターブラックボックス

○卒業制作(洋舞)
Modern Dance Performance　創舞指導:加藤みや子
12月17・18日　江古田校舎北棟中ホール

○卒業制作(演劇)
『テイク・ザ・マネー・アンド・ラン』
作:テラリーノ・サンドロヴィッチ
12月23～25日　江古田校舎北棟中ホール

詳しくは学科ホームページをご覧ください。
http://www.art.nihon-u.ac.jp/theatre

放送学科

◉頃安祐良さんが水戸短編映像祭で準グランプリ

前列左が頃安祐良さん

未来の映画監督の発掘と育成を目的とする第14回水戸短編映像祭のコンペティション部門(応募総数306作品)において、放送学科卒業生で現在大学院在学中の頃安祐良さんが、『マイ・サンシャイン』で準グランプリを獲得しました。頃安さんは、2008年に『シュナイダー』で入選したのに続き、同映像祭2度目の受賞となりました。

◉小林 岳さんがぴあフィルムフェスティバルで映画ファン賞

第32回ぴあフィルムフェスティバルにて、放送学科卒業生の小林 岳さん(2008年卒)が『真っ赤な嘘』で映画ファン賞(ぴあ映画生活賞)を獲得しました。この賞は一般審査員の方々によって選出され、「映画館で見たい」才能に対して贈られるものです。応募総数527作品の中から選出されました。本作品は、京都、福岡、名古屋、神戸、仙台の各会場でも上映されます。上映スケジュールなどの詳細は、こちらまで。(http://pff.jp/32nd/)

デザイン学科

◉「プロと卵のエコプロダクツデザイン展2010」開催

プロの工業デザイナーとデザイナーの卵達(学生)によるデザイン展「プロと卵のエコプロダクツデザイン展2010」が9月23日～10月5日まで開催されました。佐藤 徹准教授、石田純之助助教、インダストリアルデザインコース3年4名が参加し、そのうち片貝実鈴さん、二階堂翔太さん、藤原周平さんがそれぞれ奨励賞を受賞しました。なお本展は、今年12月に香港で開催されるBODW(ビジネス・オブ・デザインウィーク)に出展予定です。

◉デザインにおける造形比較研究展(仮称)

11月8日～13日　江古田校舎A&Dギャラリー
桑原淳司教授・森 香織教授・佐藤 徹准教授

◉江野真梨絵さんが、子ども虐待防止オレンジリボン運動「公式ポスターコンテスト2010」で、(公財)SBI子ども希望財団賞を受賞!

6月25日に行われた子ども虐待防止オレンジリボン運動「公式ポスターコンテスト2010」の審査結果が発表され、江野真梨絵さん(CD3年)が(公財)SBI子ども希望財団賞を受賞しました! 応募総数544点から選ばれたもので、「みんなで子どもの未来を守る」というメッセージが強く伝わってくる作品として高い評価を受けました。

◉第8回銀座スペースデザイン・学生コンペティション受賞作品公開!

3月に行われた「第8回銀座スペースデザイン・学生コンペティション」の受賞作品がこのたび各企業のディスプレイで実現され、現在公開されています。銀座の町を彩る学生達のディスプレイ作品をご覧ください。受賞作品公開日程は以下のとおりです。

○銀座賞(グランプリ)・ミキモト賞
10月21日～11月2日　ミキモト
北山ちぐさ(ID4年)、長谷川香織(CD4年)

○ギンザのサヱグサ賞
10月22日～11月7日　ギンザのサヱグサ
平間みかこ、島田 薫、工藤麻美(CD4年)

○ハツコ エンドウ ウェディングス賞
10月29日～11月8日　ハツコ・エンドウ
坂 奈津子、藤田優惟子(CD3年)

○銀座ロータリークラブ賞・資生堂賞
10月31日～11月15日　House of Shiseido
渡邊 唯、菅野吉合子(CD4年)、佐藤 樹(AD4年)、玉里智香(ID3年)

◉松崎天神縁起絵巻公開プレイベント・デザインワークショップ「きるきるなりぎるワークショップ」を実施。

防府天満宮(日本最古の天満宮)所蔵の鎌倉時代の絵巻「松崎天神縁起絵巻」を題材とした展覧会が、2011年に山口県立美術館で開催されます。このたび、そのプレイベントとして、同絵巻に描かれた菅原道真に関するオリジナルキットをデザイン学科3年生がデザインし、ワークショップを実施します。
11月21日(予定)　山口県立美術館
向井知子准教授、吉野 咲、片山拓人、友 奈津子、福永真未、兒玉美聖、藤田優惟子、小平球子(CD3年)、野々瀬 響、長塚明加里(AD3年)

◉コミュニケーションデザイン展「knock!」開催

毎年コミュニケーションデザインコース2・3年生が授業成果を発表する「コミュニケーションデザイン」が、日頃のデザイン活動をより複合的に発表する「knock!」展として、大きくリニューアルし開催されることとなりました。会期中は展覧会をはじめ、シンポジウム、ワークショップ、ナイト・プロジェクション他、様々なイベントが実施されます。
12月7日～21日(休館日12、15、19日)　10:00～18:00
(イベントごとに開催日時が異なります。映像作品など一部は19:00まで)
江古田校舎(芸術資料館、A&Dギャラリー、アートギャラリー、デザイン学科アトリエ他)

◉「第5回 "金の卵"学校選抜 オールスター デザインショーケース」出展作品が「BODW」に参加!

8月に開催された「第5回"金の卵"学校選抜 オールスターデザイン ショーケース」(AXISギャラリー)が、12月に香港で開催される「BODW(ビジネス・オブ・デザインウィーク)」のパートナー国プログラムに決定。片山拓人さん(CD3年)、二階堂翔太さん、井上駿希さん(ID3年)、中川照博さん(AD3年)の作品が出展されます。
http://www.bodw.com.hk/2010/eng/

◉平成22年度日本大学芸術学部デザイン学科卒業制作選抜展・大学院造形芸術専攻(デザイン分野生)修士課程制作展・デザイン学科生優秀作品展

2011年2月11日～27日　10:00～20:00
(無休、ただし27日は10:00～15:00)
江古田校舎大ホール棟・ギャラリー棟

◉木村政司教授、オックスフォード大学自然史博物館で個展開催!

木村政司教授が英国・オックスフォード大学自然史博物館で"The Exhibition of Masashi Kimura's Entomological Scientific Illustration"を開催します。
2011年1月10日～3月31日　10:00～17:00　無休
英国オックスフォード大学自然史博物館

college Administration office

【事務局からのお知らせ】

◉平成22年度授業日程

芸術学部祭(於:江古田校舎)	11月1日(月)～3日(水)(1、2日は休講)
芸術学部祭後片付けのため休校	11月4日(木)
一般推薦・外国人留学生等入試	11月19日(金)(休講)
後期前半授業終了	12月14日(火)
付属推薦入試・編入・転部試験	12月15日(水)(休講)
卒業試験、後期補講期間	12月16日(木)～22日(水)

※補講の実施を必要としない科目については、休講とする。

冬期休暇	12月24日(金)～平成23年1月8日(土)
後期後半授業開始	平成23年1月11日(火)
卒論・卒制提出手続	1月13日(木)14日(金)
学年末A試験(含、後期試験及び卒業追・再試験)	1月18日(火)～24日(月)

※試験を実施しない科目、B試験該当科目は平常通り授業を行う。

学年末B試験(含、後期試験及び卒業追・再試験)	1月25日(火)～31日(月)

※所定の試験時間割にて試験を実施し、平常授業は行わない。

学年末休暇	2月1日(火)～
平成22年度卒業式(於:日本武道館)	3月25日(金)〈全日大〉
芸術学部学位記授与式(於:江古田校舎)	3月25日(金)午後

◉芸術資料館企画展開催日程

写真学科オリジナルプリント展	10月26日(火)～11月18日(木)

※11月1日(月)～4日(水)の学部祭期間【含準備・後片付】も開館

(財)北野生涯教育振興会彫刻奨学金受賞者展	11月24日(火)～12月3日(金)
コミュニケーションデザイン展	12月7日(火)～21日(火)

(12月15日(水)は付属推薦入試・編入・転部試験のため休館)

美術学科卒業制作展	平成23年1月12日(水)～22日(土)
大学院芸術学研究科造形芸術専攻修了制作展	1月25日(火)～31日(月)
写真学科卒業制作展	2月14日(月)～3月5日(土)

◉平成23年度一般入学試験日程

【第1期】(募集人員382名)

学科(募集人員)	出願期間	試験日	合格発表
写真(45)	1月8日～25日	2月1・2日	2月10日
美術(30)		2月1・2日	
音楽(50)		2月1～3日	
放送(60)		〈一次〉2月1日(*二次〉2月4日	
デザイン(40)		2月1・2日	
映画(64)	1月8日～2月1日	2月8・9日	2月17日
文芸(53)		2月8日	
演劇(40)		2月8・9日	

*放送学科の二次試験は一次試験合格者(発表日=2月3日)のみ実施

【第2期】(募集人員52名)

学科(募集人員)	出願期間	試験日	合格発表
写真(5)	1月8日～3月1日	3月8・9日	3月17日
映画(10)		3月8・9日	
美術(5)		3月8・9日	
音楽(6)		3月8・9日	
文芸(10)		3月8日	
演劇(7)		3月8・9日	
放送(6)		〈一次〉3月8日(*二次〉3月11日	
デザイン(3)		3月8日	

*放送学科の二次試験は一次試験合格者(発表日=3月10日)のみ実施

※期日はすべて平成23年、試験場は江古田校舎とする
※各出願締切日前日及び当日のみ、日本大学入試センターにて窓口出願受付を行う
※各出願締切日当日及び翌日のみ、芸術学部江古田校舎にて窓口出願受付を行う

日本大学藝術学部江古田キャンパス整備事業 寄付者芳名簿

(平成22年6月14日～)

江古田キャンパス整備事業へのご協力ありがとうございます。

この度、約6年間に渡って進められてきました同整備事業が完了しました。お蔭様を持ちまして次代に要請される最新の設備を有したキャンパスが完成し、新たな教育・研究環境の整備が図られました。また、キャンパスは周辺環境を配慮し開放的なキャンパスとなっており、日芸のマークの形をしたギャラリー棟がシンボルとして一層際立っております。更なる深化を続ける「日芸」に今後ともご支援・ご協力をお願い申し上げます。今号は平成22年6月14日以降にご寄付を頂戴した皆様のご芳名を掲載させていただきました。ありがとうございました。

【在学生父母】石原崇宏/小池康之/杉田清治/田所 徹/塚本智也/内藤勝巳/廣中享二/矢野尚規【企業】(株)鹿子製作所【教職員】田口知行【校友】日本大学芸術学部校友会

以上11件(順不同・敬称略)

編集後記

男子の一言、金鉄の如しという言葉がある。男が一度吐いた言葉は金や鉄よりも重いという意味合いだが、最近の日本人の言葉は、軽すぎるのではないか。平気で前言を翻すし、言った、言わない、の関係になってしまう。人間は言葉を頼りに生きているのに、それが信用できない。

言葉は自分のおもいを他者に伝えるものでもあるが、実は、自分の考えていることや意識していることを、相手に判断してもらうということのほうが大切なのである。だからいやでも話し合わねばいけないのだ。心の病いに陥るのも人間関係の軋轢によるが、そこから脱するのもまた、人との良好な関係の構築しかない。

近年は電子機器の発達で、自分の世界だけで生きることができる環境が増えたが、芸術学部の学生は、どんなジャンルでも、目に見えない人間の感情を表現しようとする人々の集まりであるから、それにはなによりも人と接することが大事なはずだ。どんなにつまらないことでも、会って、表情を確かめ合ってしゃべっていれば、感情指数がもっと高まるのではないか。電子の言葉からは、決して表情は見えないのだ。

編集委員　佐藤洋二郎

◆発行:日本大学芸術学部◆発行責任者:野田慶人
◆編集:広報委員会/委員長:佐藤洋二郎/副委員長:向井知子/編集委員:高橋則英/宮崎正弘/鞍掛純一/土野研治/谷村順一/大久保恵児/金 龍郎/長瀬浩明/松本 洸/山内 淳/松村悦博/樋口 肇/秋山和則/鈴木俊崇◆ACロゴデザイン:中島安貴郷◆デザイン:井原靖章デザイン◆印刷:(株)タスプ/前内民生　発行2010.11